

中秋の名月

9月30日にちおうび

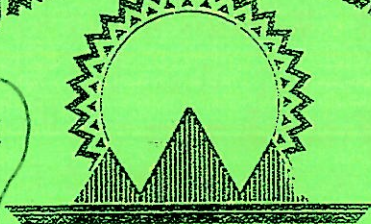
時に夜空を
見上げてみよう。

青山通り沿いで、時々
夜空を見上げている人たちが
います。その視線の先には
東京タワーと六本木ヒルズ。
そして、その間に
ほろかりまんまるお月さま。

山陽堂だより 38

2012年9月長月

SANYODO MOTEN



山陽堂書店

山陽堂

臨時休業

9月8日(土)

お休みします。

この日雑誌の
発売はありません。
よくあゆまい
いたします。



安西水丸+和田誠

番外・AD-LIB

2012.9.13(木) ~ 9.28(金) 平日11:00~19:00

Opening party 18:00~20:00 土 11:00~17:00

和田誠さんと二人展を開くようになって10年以上が
過ぎました。この度、今や初夏の風物詩にもなっ
ているこの展覧会を、「スホースYUI」から表参道の
「GALLERY SANYODO」に移し、「番外」と銘打って
展示するはこびとなりました。

昔から「所変われば品変わる」と諺が伝えられており、

はくたちの二人展もまた新しく皆さまの目に映ることと
確信する次第です。

ここで二人のアトリエ感覚を十分にお楽しみいただ
けましたらうれしい限りとおもっております。

謹んで皆さまの御来場をお待ちしております。(水)

— 安西水丸+和田誠「番外・AD-LIB」

D.M. ありー

チャリティー
フェア

8月20日～9月7日

(写真屋) (M) 男性 (F) 女性

あの頃の青山表参道 - 昭和初期から終戦のころ -

「日々行くかうこの町のありし日のすかたに驚きつししみつつ」(M)

「時間つぶしに立ち寄りましたか。思いがけず大変感動できるキャウリーに出会い嬉しかったです。兵隊お化けのように、現実ではなかなか思えて行脚に起こせないうちの中ですか。見習ってほしいです。」(F)

「偶然立ち寄りまして。軍国主義ではなく『Tはまたま倒れていた人かいたから...』のフリースはグッとくるものがありました。」(F)

「御幸通りにこの様な歴史があったことを知りませんでした。現代の本公園から兵隊表参道、御幸通りを通る姿は今の遊客にこれらの通りからは想像できません。こうした歴史の裏舞台に兵隊お化けさんなどのような地元住民の交かあったと知るのはうれしかったです。」

「ふたつはこの街を散策しに来たとその感じもまた違ってくると思います。」(M)

「20年以上も前、今は七き母と向い側にある『スタウト』におく来たのです。2人にこちらの方に来ることを、そして又、貴重な戦時中の写真を見られて光栄です!! 兵隊さん達の笑顔がとてもいいです。」

「過去の上に今がある。高3の娘さんとお母さん」

「先ん達の命もほきようと思ひました。」

「戦後高校生の頃、山陽堂に参考書と買いに来て、なつかしい思い出です。」(M)
(1926～28年)

「今と昔がわかりました。私は小学6年生です。昔、はせんせん分かんがなかつたけど、せんせん中のことがわかりました。興味をもちました。ありがとうございます。」(F)

出版会社『荒の人』フェア 9月3日～12日

「荒の人」は、1997年4月に創立した、百都鎌倉にある出版社。

社名は、縁の深かった詩人、北村太郎さんの詩集『荒の人』から。

ぬいめ正一さんは「荒地の恋」(文春文庫610円)で、この詩人のことと本にした。

あつた、5才の男、親友の妻と恋に落ちた時、彼らの地獄は始まった。

詩神と酒神に愛された男、田村隆一。感受性の強いその妻、明子。そして、北村太郎は

明子に出会い、家庭も職場も捨て、「言葉」を得る。宿命で結ばれた「荒地派」

の詩人たちの軌跡を直木賞作家が描く。第3回中央公論文芸賞受賞。

「荒の人の本の中の一冊『あなたの底のさびしい歌』宮沢賢治著

1920年、友人保原嘉内「またまた、また、こんなことでいいから専門はくすぐったい。」

「学者はあかしい。実業家とは何のことか。またまた、またまた。」

「しっかりやりましょう。しっかりやりましょう。しっかりやりましょう。」

「かなしみはちからに、谷久はいつくしみ、いかりは智慧にみちびかるべし。」